

青山学院中等部

算数

前年と同じ傾向で、できるだけ多くの項目から出題します。基本計算・基本問題が 10 題余りで、2～3 問の枝問のある大問は 2～3 題ほどです。

国語

全般的にあらゆる文章から出題します。知識問題・漢字・語句などは、読解総合問題の中で問います。

理科

物理・化学・生物・地学の 4 分野から満遍なく出題します。小問を集めた問題 1 題と大問 4～5 題です。全体の問題数に変更はありません。

社会

3 分野（地理、歴史、時事問題を含む公民）からほぼ均等に出題します。漢字・国名などは正確に覚えてください。

郁文館中学校

算数

一般入試では、塾のテキストや模擬試験に出題される基本問題を確実に解けるようにしておけば、合格点を取ることが可能です。割合・規則性・速さ・図形（平面・立体）の問題はよく練習しておいてください。特別奨学生入試では一般入試よりもやや難度の高い問題が出題されますが、難問の出題はありません。いずれの過去問も本校ホームページからダウンロードできますので、そちらを利用して試験時間内に解く練習をしてください。

国語

毎年、大問として「登場人物の心情」を読み取る問題（文学的文章）と「論理的な内容」を読み取る問題（説明的文章）の2題を出題しています。この点は特別奨学生入試、一般入試ともに共通で、特別奨学生入試では記述式の解答を求める問題を毎年出題しています。一般入試では漢字を除き、記号選択式の問題が主となりますが、2008年度から30字程度の記述問題を出題しています。特別奨学生入試ではキーワードを用いて100字程度でまとめる問題を出題します。

理科

小学校で学ぶ物理・化学・生物・地学の分野から満遍なく出題します。基礎知識を問う問題のほか、観察や実験の結果から得られるデータをもとに考察を加える問題を出題しますが、特別奨学生入試では、より思考力を問う出題となります。

社会

地理・歴史・公民の各分野から満遍なく出題します。一般入試ではこれに加えて時事問題の出題が、また、特別奨学生入試では20～50字程度の記述式の出題があります。歴史・公民の問題では漢字指定の問題も出題します。塾のテキストに太字で出ているような事項は漢字で書けるように練習しておいてください。

穎明館中学校

算数

規則を正確に適用し敏速に計算処理ができるかどうかと、幅広い知識と迅速な問題解決能力、論理的思考力、高度な図形直観力、複雑な計算と深い思考で数量を処理する能力があるかどうかを問います。途中式を書く大問には部分点があります。

国語

文章題は、論説文と小説が中心です。正確な速読を必要とする設問で、記述式を中心に読解力、思考力、表現力を問います。基本的な漢字能力、文法能力も問います。

理科

4 分野から偏りなく出題します。理科に興味を持ち、観察や実験に自分からきちんと取り組むことができるかどうかを見ます。基礎的な知識と科学的な思考力を問います。

社会

3 分野を総合して、大問を 2 題出題します。地理と歴史では、基本問題ではありますが、地図・統計・年表・写真・絵などを多用して、知識の確かさと広さ、理解力の深さをいろいろな角度から問います。公民では、日本の政治・経済・社会についての基礎的知識を問うだけでなく、日本と世界の最近の動きのなかから、国民にかかわりの深い時事的な問題も取り上げます。

桜美林中学校

算数

総問題数は 20～22 問で、計算問題・逆算による穴埋め問題が 3～5 問、短い文章で完結する小問が 7～10 問です。ここには〇〇算といわれる問題や、面積・体積を問う問題が含まれます。残りの大問は 3～5 題で、速さや特殊算を利用する問題などです。基本的な問題が中心なので、計算ミスがないよう注意してください。

国語

漢字・語句や表現の問題には正しい知識が必要です。本や新聞を読むことや、正しい日本語を使うことを心がけましょう。長文読解問題は小説・物語文と論説文・説明文から 1 題ずつ出題します。どちらも 2500 字から 3000 字です。小説・物語文では登場人物の心情や動き、作品の表現が問題の中心になり、論説文・説明文では全体や部分の内容を正確に理解したかが中心になります。

理科

4 分野からバランス良く出題します。出題内容は力のつりあい、電気、熱の伝わり方、音と光、気体の性質、液体の性質、ものの燃え方、動物、植物、ヒトのからだ、天体、気温と天気の変化の関係、大地と岩石などです。また、最近話題になった事柄なども出題します。基本問題が中心ですが、日常生活で体験するような科学的現象にも関心を持つように心がけてください。

社会

問題の総数は 40～50 問程度です。地理・歴史・公民・時事の各分野から出題する予定です。地理は日本の地域・産業、歴史は原始・古代、中・近世、近・現代に分けて、公民は政治・経済・国際問題について出題します。また、地理と歴史はテーマに沿った問題もあります。時事問題は 2011 年のことに限らず、近年起きた出来事に着目して確認しておくといでしょう。

国学院大学久我山中学校

算数

大問は4題で、基礎学力を見る問題が4割、応用力を見る問題が6割です。[1]は整数・分数・小数の四則混合計算問題、[2]は特殊算・図形などの小問、[3]は融合問題です。(1)と(2)が、(3)と(4)のヒントになっていることが多いです。[4]は記述問題です。

〈ST入試〉大問は4題で、2012年度入試より[1][2]は特殊算、図形などの雑小問です。[3][4]は一般入試における[3][4]と同等か、それ以上のレベルで、考える力を問う問題を出題したいと考えています。[3][4]のうち記述問題は1題です。

国語

大問は3題で、長文が2題、国語常識問題が1題です。①漢字に関する問題は漢検5級レベルで、語彙力を必要とする問題や、送りがな・漢字の部首を問う問題を出題することもあります。②慣用句・故事成語・ことわざなども出題することがあります。③読解は書き抜き・選択式・空欄補充などの形式で、30～40字程度の記述を2問出題する予定です。採点に当たっては部分点を見ますので、必ず解答するように心がけてください。

〈ST入試〉原則として、三つの大問からなる問題の構成については一般入試(1・2・3回)と同じですが、〈ST入試〉に特化した出題内容としては次の2点になります。

(1)文章の読解を通して、筆者の言いたいこと(中心(主題・主張))をとらえ、それを50字から100字程度で記述する問題が追加されます(10点前後)。

(2)長めの文章:長文2題のうち少なくとも1題は3000字を超える長さになることもあります。限られた時間のなかで、迅速かつ正確に読むことが求められます。

理科

大問は5題で、配点は各10点です。大問ごとに4～7の小問があります。物理は基礎的な事柄を発展させた問題など、化学は身近な物質を使った実験に関する問題などです。生物は身近な生き物の生態や、社会的に話題になっている事柄に関する問題などを、地学は身の回りの自然現象に関する問題などをそれぞれ出題します。総合問題は小問10問です。教科書を中心に基本的用語や語句、実験操作などにかかわる、理科の全範囲にわたる問題です。

社会

大問は3題です。[1]は身近なテーマを取り上げ、3分野にまたがって考察力・思考力・理解力を求めます。[2]は地理・歴史の融合問題で、一つの「地方」に限定しないで出題する予定です。[3]は歴史の単独問題で、写真や史料などから考えて解く力が必要です。

桜丘中学校

算数

2011年度は大問を6題出題しました。例年、ほぼ同じ出題パターンです。計算問題では計算の工夫が必要な問題が出ます。最初から単純に計算するのではなく、計算全体を見て、どこか工夫することができないか考えてみるようにしましょう。ひねった問題は多くありませんが、さまざまなジャンルから出題されるので、公式についても一通り確認しておく必要があります。難しい問題よりも基本的な問題をたくさん練習することを勧めます。

国語

長文は説明的文章と文学的文章の2題です。説明的文章では、キーワードとなる語句を見つけられるか、段落の要点や段落相互の関係をとらえられるか、文章構成や主題を正確に把握できるかを中心に問います。文学的文章では、主観的に読んでしまわないように注意してください。直接的な感情表現だけでなく、情景から示される間接的な感情表現がポイントになると思います。いずれにしても難問はありませんので、安心して受験してください。

理科

物理・化学・生物・地学それぞれから満遍なく出題するようにしています。ほとんどが基本的な問題で、それを踏まえて考える応用問題が出る程度です。ただ知っているというだけでなく、日常生活のなかで起こる現象や環境に関心を持ってもらいたいという思いで問題を作っています。「なぜ?」「どうすればいい?」と考えさせる問題もあります。実験を踏まえたものもありますが、実際に経験していなくても順序立てて考えれば解ける問題です。

社会

半分は歴史分野から、残りを地理・公民・時事から出題しています。歴史では単語や年号を覚えるよりも、歴史の流れとその時代の特徴を押さえておくとうよいでしょう。問題文や選択肢に解答のヒントが含まれているものもあります。地理でも単に暗記するのではなく、学んだことを使わないと解けない問題もあります。時事問題などでは、簡単な記述問題も出題しています。あきらめずに必ず何か書くようにしてください。

渋谷教育学園渋谷中学校

算数

2008 年度から答えのみの解答ではなく、記述を含むようになりました。具体的には、[1]は計算問題で 2 問中 1 問が記述、[2]は小問の集まりで、5 問中 1 問が記述、[3]以降は大問 3 題のうち 1 題が記述で、それぞれ大問 1 題に小問が数問ある形です。数学科としては、小学校までに身につけてもらいたい計算力や基本的な問題を解く力はもちろん、物事を多面的に見ることができる力や文章を読解する力なども入試で確認したいと考えています。問題作成においては、総合的な力を見ることができるようにと心がけました。また、記述問題を導入したのは、式や図からどういう考え方をしたのか、どこまで考えることができたのかを見て加点したいと考えているからです。

国語

帰国生入試を含め、各回、問題の形式や難易度などには変化をつけずに作成しています。難易度は 2011 年度と同程度と考えており、文章を読んで設問に答える問題を 2 題出題します。1 題は小説・物語文、もう 1 題は評論・説明文です。設問は読解問題が中心で、本文をじっくり読み、いかに自分のものになっているかということを見たいと考えています。登場人物の気持ちの動きや、筆者の論の流れを自然にとらえることができれば、答えやすい問題が多いのではないのでしょうか。設問の形式としては、選択式・記述式、どちらも出題しますが、記述を重視しています。基本的には 2011 年度と同様、字数制限のある問題は、多いもので 100 字程度です。部分点をつけながらいねいに採点します。一方、漢字や語句などは単独では出しません。いずれも大問 2 題の中で出題します。

理科

大問は 3～4 題程度で、年により出題の数や配列構成、出題形式などは多少変化していますが、出題傾向は 2012 年度も変わりません。考える力や表現力をしっかり見たいと思います。理科としては、4 分野（物理・化学・生物・地学）に分けることにはこだわっていません。過去問を見ればわかるように、総合問題も出題されています。2012 年度も理科全体から広く出題したいと考えています。

社会

本校の教育目標の一つである「国際人」の育成に注目し、現代の社会情勢に興味・関心を持っている生徒を見極められるような入試問題を作成したいと考えています。出題のポイントは①「暗記力」ではなく「判断力」を問う、②「記述力」を問う、③社会的関心の高さを問う、の三つです。①は単に知識の量を問うのではなく、知識をもとにして判断する力があるかどうかを問います。統計資料やグラフ、史料、地図などを読み取る力が必要です。次に、②は単に物事の正否判定を問うのではなく、因果・背後関係の説明を求めるといったものです。ふだんから自分のことばで文章を組み立てる練習が必要でしょう。そして、社会科の学習の基本は、興味・関心を持つことなので、③として、日本や世界に対する関心・興味があるかどうかを問います。新聞の国際面・経済面を読んだり、テレビのニュー

スを見たりすることも大切です。

順天中学校

算数

小問として「四則混合計算問題」「一行問題」を計 10 問程度、大問として「総合問題」を 3 題程度出題します。一行問題は「割合や速さを求める問題」「図形の面積や角度を求める問題」「規則性の問題」「特殊算の問題」などが出題されます。また、総合問題は「量の変化をグラフから読み取る問題」「図形の面積や体積」「立体図形」「図形の移動」「規則性や周期性を見つける問題」などが毎年出題されています。総合問題は問題文から何を問うているのかを読み取り、約束ごとを見つけたり、要点を発見したりすることで手掛かりをつかんで、粘り強く最後まで考えることが大切です。

国語

自然科学や社会科学に関する説明的文章を論理的に読み取る問題と、小説・童話から登場人物の心情の変化を読み取る問題の大問 2 題で構成されています。それぞれの問題では最初に漢字の「読み」または「書き」を出題します。次に、説明文では、作者の考えが正確に読めているかが問われます。ことばの意味を正確にとらえ、問題文を整理して論理的に読み取ることが大切です。一方、小説・童話は、登場人物の気持ちになって読み取ることが必要です。自分勝手な考えではなく、その登場人物の気持ちを答えることが大切です。なお、どちらの問題も、設問形式は「選択肢の中から選ぶ問題」「問題文の中から書き抜く問題」「字数制限のなかで自分のことばで説明する問題」となっています。差がつくのは記述の問題です。自分のことばで 30 字～50 字以内で伝えたいことをまとめる力が必要です。

理科

実験を通して考える力を問う問題や、グラフや図表から読み取る力を問う問題、知識力を見る問題、法則性を見だし計算力を問う問題など、多岐にわたった出題をします。毎年、「水溶液や気体などの実験」「力・電気・磁石・光」の分野や、「動植物の分類と形態」「地形や岩石・天体や気象の問題」「地球環境問題」も出題されるので、基本的な知識も必要となります。

社会

大問 3 題から構成され、それらは「日本各地の代表的な地域における自然や産業を問う問題」「日本を中心とした、あるテーマを中心とした歴史事項を問う問題」「社会で現在問題となっているさまざまな政治や経済的話題をもとにした時事問題」などです。そして、グラフなどから推量し、読み取る問題も出題されます。時事問題は、最近の新聞やニュースなどの話題に興味を持つことが必要となります。

成蹊中学校

算数

〈出題方針〉正確な計算力をベースにした算数の力が身につけているかどうかを確認します。どの分野からも偏りなく出題することを心がけています。

〈問題の傾向〉計算問題は必ず出題します。「〇〇算」「図形」「割合・比」「二つの量の変わり方」など、どの参考書や問題集にも載っている典型的な問題も多く出題します。また、典型的な問題を組み合わせた応用問題も出題します。いわゆる難問といわれるものも出題することがあります。

国語

〈出題方針〉いろいろな形態のまとまった文章を読む力があるかどうかを見ます。小説や物語文では、状況を把握し、心情を理解する力があるかどうかを、論説文や説明文では、論旨や、筆者の主張を正確につかむ力があるかどうかを、記述問題では、文中のことばをつなぎ合わせるだけではなく、理解したことを自分のことばで的確に表現する力があるかどうかを、それぞれ主に見ます。

〈問題の傾向〉長文読解問題（文学と非文学）を中心としています。理解力と表現力を確認するために、50字から100字前後の記述式問題を出題しています。接続詞、指示語、語句説明、漢字などの基本的問題も出題しています。選択肢の問題であっても、全体を把握したうえで答えるような問題を出題しています。

理科

〈出題方針〉小学校理科のいろいろな分野から満遍なく出題し、基礎知識を幅広く問います。答えを選択する問題のほか、文章で答える問題、計算問題なども出題します。

〈問題の傾向〉本校での授業の中心となる実験・観察を取り上げた問題が毎年出題されています。図やグラフを用いた問題も毎年出題されています。

社会

〈出題方針〉単に知識として知っているかどうかを尋ねる問題だけでなく、提示された情報・資料を基に理解し考察する力を見る問題があります。具体的には、大問を2題出題します。1題が歴史問題、もう1題が公民問題です。

〈問題の傾向〉歴史問題と公民問題のどちらかが長文問題、どちらかが半分程度の文章量の問題（短文問題）です。たとえば、歴史（長文）＋公民（短文）、もしくは公民（長文）＋歴史（短文）のどちらかになります。なお、長文の問題は、紙面上で授業を展開する形で文章がつづられています。本文を理解しながらじっくり読み、その後の設問に答えることを期待して作成しています。

成城学園中学校

※成城学園中学校では「入試の出題傾向」という形ではなく、「中学校入学までに身につけてほしいこと」として以下の情報を公開しています。

算数

「整数・小数・分数についての四則計算（加減乗除）を素早く、正確に行える計算力」「思考の途中経過を他人が見てもわかるように書く習慣」「問題文の意味および何を問われているのかを理解する力」「50分間の授業に取り組むことができる集中力」をつけるよう心がけてください。

国語

入学までに小学校で学習した基礎的なことをしっかり身につけてほしいと思っています。まずは「読解力」。説明文では、書かれている内容を整理し、要点を押さえながら読む力を、小説では、場面の移り変わりや登場人物の心情の変化などを押さえながら読めるような力を身につけてほしいと思います。そして、「表現力」として、自分の考えや感じたことを正確に文章に表現する練習をしておいてください。こうした力を身につけるためには、さまざまな内容の文章に触れるなどして、日ごろの読書量を増やすことが大切です。また、新聞を毎日読む習慣を身につけ、記事を要約してみるのも有効でしょう。さらに、小学校で学習する漢字（1006字）の読みや書きがしっかりできるようにしておいてください。特殊な知識などを身につけることも大切ですが、まずは小学校で学習した基礎的なことを十分身につけて入学してほしいと思います。

理科

小学校の理科の教科書にある内容について偏りなく勉強し、基礎・基本をしっかりと身につけておいてください。単なる知識の丸暗記ではなく、分析する力をつけてほしいと考えています。実験であれば、その実験の結果から法則性を見だし、その法則性を応用するということが重要です。観察の場合には対象物の特徴を見つけ出し、その特徴をまとめられる力をつけることが重要です。また、中学校の授業では実験の数値を計算する機会が増えます。その際、小数や分数の計算が必要になることがありますので、小数や分数を含んだ四則計算が正確にできる力をつけておいてほしいと思っています。このほか、実験でガスバーナーを用いることが多くあります。マッチの擦り方（火の付け方）、ガスバーナーの点火方法、炎の調節の仕方などの実験操作に慣れておくとよいでしょう。

社会

小学校5～6年生で学習する地理・歴史（日本史）・政治（社会の仕組み）の基本的な内容をしっかり理解しておいてほしいと考えています。その基本的な知識のうえに、それらを用いて思考し、判断できる応用的な力が身につけるとよいでしょう。たとえば、地図やグラフ、表、図版などを読み取るなど、単純に記憶するだけではなく、物事の関連やつながりを理解し考えられる力を身につけておけるとよいと思います。また、中学校の定期

テストでは論述を求める問題も出していますので、知識として得たことをしっかりまとめて書く力もあるとよいでしょう。歴史では、時代の特徴や流れ、社会の変化などを意識して押さえておいてほしいと思います。政治や現代社会の仕組みについては、基本的な知識に加えて時事的な内容にも興味や関心を持ってもらいたいと考えています。そのため、小学生なりにニュース・新聞など世の中の出来事に関心を持ってほしいと思います。

青稜中学校

算数

設問数は 20 問で、50 分の試験になります。1 問当たり 5 点の配点で、答えのみを採点するので、途中式に対する部分点はありせん。内容は大きく七つに分かれており、一つ目は計算問題が 5 問で、四則の演算力を問います。二つ目には小問集合が 7 問あります。単位の変換、割合、約数や倍数の性質、速さと時間、角度を求める問題など、さまざまな分野から出題しています。三つ目以降の設問は、身近な題材を使った文章題となっています。つるかめ算、相当算、旅人算などの特殊算や、図形の求積問題などです。基本的な問題が多いので、時間配分に気を配り、確実に得点するよう心がけてください。

国語

長文問題 2 題、小問、漢字の 4 題構成です。7～8 割の配点となる長文問題は、文学的文章と論理的文章から 2 題を出題。前者は少年少女が主人公となる小説を中心に、後者はことばから科学までさまざまなテーマについて、比較的短い評論や説明文から述べた出題。日ごろから新聞やジュニア新書、小説などを読む習慣がものをいうでしょう。問題形式としては、選択肢問題・書き抜き問題・記述問題が中心です。誤字・脱字は減点対象となります。書き抜き問題は問いや注意事項をよく読み、指示どおりの答え方をしてください。記述問題は完璧な答えでなくても部分点となることがあるので、あきらめず積極的に解答してください。小問はことわざ・慣用句・文学史・単語の働き・文法問題・四字熟語などの知識問題が中心です。また、漢字の読み書きは約 10 問です。日ごろからていねいに正確に書く訓練をしてください。

理科

物理・化学・生物・地学の各分野から大問 4 題です。60 分で社会と同じ時間に解答します（理科にかかる時間は目安として 30 分）。各小問の配点は 2～3 点で、60 点満点です。生物・地学では一行程度の文章で答える問題も毎回出題しています。単なる暗記ではなく、学習してきた知識を使って、実験や観察に基づいた表やデータを処理し、解答する問題が多く出題されます。

社会

地理・歴史・公民の各分野から 20 点ずつの出題で、記号で答える問題以外は、すべて漢字で解答を書かなければなりません。単なる丸暗記ではなく、学習してきた知識をもとに、統計を読み取ったり、説明文の正誤を判定したりする問題を数多く出題しているので、しっかり準備しましょう。また、時事問題についてもよく出題されます。

玉川学園中学部

算数

小学校で学習した算数全般にわたって出題します。算数の公式や概念を理解していること（知識）、知識を体系化し活用できること（技能）、知識や技能を利用して未知なる問題の解決に結び付けられること（思考力）などを見ます。また、知識や技能に関する問題は、小学校の各学年の内容を集約して出題します。そして、思考力に関する問題は、情報や条件を問題文から見いだして、そこから新しい情報を生み出す問題、空間観念を活用する問題、思考過程を式や文字などで記述する問題を出題します。算数の内容を幅広くとらえ、基礎・基本の内容の定着と深化を図ることが大切です。

国語

国語の出題分野は、大きく「言語事項」(30%)と「読解」(70%)とに分かれます。まず、「言語事項」では、漢字・語句に関する読み書きを中心とした問題のほか、文やことばの意味・用法などに関する問題を、さまざまな様式で出題します。次に、「読解」は、文学的文章(物語文)と論理的文章(説明文)の二つの長文(各2400字前後)を出題します。文学的文章では登場人物の心情を問う問題を中心に、論理的文章では文章の展開(論理)や要点・要旨を理解する問題などを出題します。長文読解には、接続語や指示語、空欄補充や抜き出しのほか記述問題もあり、問題様式は多様です。

理科

小学校の学習内容を中心とした問題を出題します。中学校の内容を先取りした知識はほとんど必要ありません。与えられた情報からその場で考えるタイプの問題も出題します。初めて見る内容でも、問題の中にある情報を読み取って答えを導き出す力が必要になります。また、記述問題が出題されます。理科の記述には「文章」と「グラフ化」の2種類があります。「文章」は上手な作文ではなく、根拠を示して正確に伝えることが大切です。「グラフ化」は、与えられた実験結果を正確にグラフにする力が必要になります。

社会

第1回から第3回の試験のいずれでも、地理・歴史・公民の3分野からそれぞれ出題します。地理分野では、日本地理を中心に、気候に関する理解、国や都市の名前や位置などの知識も必要です。次に歴史分野では、人物と時代、出来事などを中心に、公民分野は基本的な用語を理解することが必要です。また、新聞やニュースからの時事問題なども出題します。

多摩大学附属聖ヶ丘中学校

算数

大問数が 5 題、総小問数が 20 問前後です。試験時間は 50 分ですが、さまざまな分野から出題するので、時間配分に気をつける必要があります。計算力は算数の基本的な力です。毎日 5 問でも 10 問でも欠かさずに練習してください。数量分野では、特に数の性質、規則性などに注意しましょう。図形分野では、面積や体積ばかりでなく、長さ、角度、相似比と面積比、体積比などの考え方、解き方を身につけてください。また、グラフの問題では、速さに関するグラフ、水の深さの変化に関するグラフなど、さまざまな問題があるので、いろいろなグラフに接しておきましょう。特殊算については、還元算、消去算、仕事算など「〇〇算」といわれる単元の基本を習得しておいてください。

国語

試験時間は 50 分で、文章読解問題 2 題（説明的文章と文学的文章）を中心に、漢字の読みと書き取り各 5 問と、言語事項と韻文（詩）の読解 10 問ほどを独立題（大問 5 題）として出題するという構成です。長文読解問題の設問数は 20 問程度です。本校の国語の問題には難問や奇問はありません。なかでも、長文の読解を通じて、指示語、段落や場面の構成、登場人物の心情の変化などを読み取る力を大切にしています。読めない漢字や意味のわからないことばをすぐに辞書で調べることなどを意識しながら、日ごろから文章を読む習慣をつけましょう。

理科

大問数は 4 題で、試験時間は社会と合わせて 50 分です。「生物と環境」「物質と変化」「運動とエネルギー」「地球と宇宙」の各分野から偏りなく出題しています。内容は基本的なものがほとんどなので、ふだんから、わからない問題があってもすぐに解答や解説に頼らず、じっくりと考えることが大切です。

社会

大問数は 3 題。試験時間は理科と合わせて 50 分で、地理分野・歴史分野・時事問題を出題しています。いずれも基本的な知識を問うものが中心となっていますが、問題のなかには基本的な知識をもとに考えさせる選択問題があります。時事問題では、基本的にこの 1 年間に話題になった出来事や、それに関する地域・人物などを出題します。

中央大学附属中学校

算数

出題において重視するポイントは「したたかな計算力」「論理的思考力」「図形や空間を把握する力」の三つです。「計算力」には、工夫により速く正確に結果を得る能力も含まれます。「論理力」としては、長文を最後まで読み解く読解力、グラフに表されたものを見抜く分析力、仮定を立てて場合分けする問題整理能力も問われます。「図形の力」では、回転したり、切ったり、折ったりといった「動き」に対する想像力も試されます。なお、「特殊算」については参考書などで一通り勉強しておくといよいでしょう。

国語

原則として、文章題を2題出します。そのうち1題は小説を読解する問題とし、もう1題は評論を読解する問題とします。小説も評論も、かなりの分量の文章を読んだうえで設問に答えることとなります。小説に関しては、「具体的な場面・状況のなかに置かれた人物たちが、どのようなことを思うのか、どのように感じるのか」「ある人物の行為・反応・発言は、その人物のどのような気持ちを表しているか」ということを読み取る力が必要です。次に、評論に関しては、やはり「筆者の意見や考えを的確に理解する力」「論理的な思考力」というものが必要となります。また、慣用句などの語彙力を問う問題や、漢字の書き取り問題（読みを含みます）も出題します。問題の多くは選択肢形式ですが、問題量は比較的多く、基礎的な国語力（読解力・理解力・語彙力）が身についているかどうかを試される問題だと思えます。

理科

本校の理科では、実験や観察を重視しています。書物からだけでなく、身の回りの自然や現象を材料に学ぶことが大切だと考えます。そのような観点から、来年度の入試問題も実験や観察、身の回りの自然を題材にした問題が中心になっています。問題は四つの大問から構成されており、それぞれ物理・化学・生物・地学の4分野からの出題となっています。配点は偏りなく、どの分野についても原則的に同じです。できる問題から先に解くことをお勧めします。解答に当たっては、はっきりとした読みやすい文字や記号を解答用紙に書いてください。読み取れないものや紛らわしいものは、採点の対象としません。試験時間中、机の上に置けるものは、鉛筆またはシャープペンシルと消しゴムのみです。定規やコンパス、分度器の使用はできません。

社会

教科が望む生徒像は、物事の全体像を見て、臨機応変に柔軟な判断のできる総合的なバランス感覚を持っている受験生です。この方針から、地理、歴史、公民、時事的分野のそれぞれの割合は一定ではなく、その都度変わる流動的なものでした。問題構成は大問2題で、一つの分野に特化したものでなく、各分野を網羅した総合問題が中心となります。出題形式は、多くが選択肢から正解を選ぶ選択問題ですが、一部には語句を記す問題もありますし、さらに、ある事柄について簡単に説明してもらう「短文記述問題」も出題することに

なると思います。本校では school lunch と呼んでいる食育を行っています。これを念頭に置き、日常生活の身近なものに関心や問題意識を持ってもらいたいとのメッセージを込めた問題をこれまで継続して出題しています。しばしば受験生泣かせと言われる時事的分野に関しては、新聞やテレビなどマスメディアで大きく取り上げられたものや、日常生活に深くかかわっているものを題材にしたいと考えています。

東京成徳大学中学校

算数

過去3年と同様に、大問数5題で小問25問です。1問4点の100点満点となっています。試験時間は50分で、過程をきちんと書かせる問題を何問か設定しています。規則性や図形の問題を増やし、考える力（試行錯誤のプロセス）を見る問題構成になっています。大問1は、計算、一行問題を合計9問出題しています。大問の2と3では、公倍数や公約数を中心とした数の性質や、規則性を見つけて解く数列などの問題、旅人算などの特殊算を4問ずつ出題しています。あとは平面図形や空間図形の問題を出題していますので、図形の問題をできるだけ多く解いておきましょう。また、計算練習を繰り返し行うことを心がけ、文章題を解くときは、できるだけ図やグラフを描きながら考える習慣をつけてください。

国語

各回（第1回午前～第3回午後の6回）とも大問が3題で、文学的文章（小説など）、説明的文章（論説文など）、語句に関する知識問題（ことわざ、慣用句、熟語の組み立てなど）と漢字の読み書きで構成されます。それぞれの長文読解問題の設問数は7～10問くらいで、そのうち記述問題は1～3問くらい（20～50字で記述）です。本文中からの抜き出し問題ばかりではなく、説明させる設問も必ずあります。

理科

物理・化学・生物・地学の4分野から、大問で各1題は出題します。小問数では、記述・計算を含めて30問前後となります。独立した内容だけではなく、各分野と関連した出題もあります。実験や写真・図が表していること、それから考えられることをしっかりとらえる力をつけましょう。自分でたくさんの実験をすることは難しいと思いますので、図や写真・実験方法が多く記載されている参考書は大きな助けになります。ぜひ活用してください。

社会

地理・歴史・公民の各分野から、基本的な問題を出します。時事問題が出題されることもあります。基礎事項を確実に学習し、地名・人名・用語は正確に漢字で書けるようにしておきましょう。暗記力だけに頼らず、「考えて解く」ということを意識してください。

東京電機大学中学校

算数

満点は100点です。受験生の平均得点率は入試回によっても多少変わりますが、男子で6～7割、女子で6割程度です。出題するのは「計算力」と「問題文（表やグラフ、図形なども含む）をしっかりと把握し、正しい考え方ができる能力」を試す問題です。出題形式については2012年度も変更ありません。大問1は計算問題、大問2は雑小問（標準的なレベルの問題を幅広い分野から出題）、大問3～5では、年度によって異なりますが、その中に小問2～3問が出題されます。小問を順番に解いていく形が多いので、最初の問題を間違えないことが重要です。また、大問1、2は答えのみの記入ですが、大問3～5は計算過程も書くことができる解答欄になっています。本校の数学の授業では、答えを示すだけでなく、式や説明もしっかりと書くことを徹底的に指導しています。入試では答えのみでも正解としていますが、計算過程の欄に何か書いてあれば、その式や図、考え方が正しいかどうかを見て点数を与えています。できるだけ計算過程欄も活用していただければと思います。幅広い範囲から出題しているので、単元を絞らず学習してください。また、入試の答案を採点していると、理解しているのに単純な計算ミスなどで点数を落としてしまう受験生が多く見られます。計算力は確実に身につけておきましょう。さらに、記述式の解答にも対応できるように、日ごろから式や説明を書く習慣をつけておくとういでしょう。

国語

今年度から出題形式が一部変更となります。前年度までのものに比べて、問題文を若干短くし、「語句・知識問題」を独立して出題します。具体的な問題構成としては、「文章題2題（説明文的文章と文学的文章）」に加えて、「漢字の読み・書き」と「語句・知識問題」が出題されます。文章題の出題内容は「説明文的文章」であれば、段落分け・接続語の空欄補充・文の並べ替え・要旨の把握となり、また「文学的文章」であれば、登場人物の心情把握が中心になります。解答方法については、選択肢や文中からの抜き出しといったものだけでなく、自分のことばで解答をまとめる問いも例年出題しています。こうした記述式の解答に時間を取られないよう、ふだんから自分のことばで文章を組み立てる習慣をつけておくことが望ましいです。また、これまで問題文中で出題してきた、文法・ことわざ・慣用句・表現技法などについては、「語句・知識問題」で出題します。出題の種類は多岐にわたっていますが、基礎的な問いを中心に出题しているので、基本的な国語力を身につけていれば十分に対応できます。「文章題」については、本校の過去問題集を解くなどして出題形式に慣れることはもちろんですが、ふだんから読書を通じて思考力を深め、日常のことば遣いなどでも的確な日本語を使うように心がけてください。「漢字の読み・書き」と「語句・知識問題」については、本校の過去問題集のほか、漢検や市販の問題集などで繰り返し学習することをお勧めします。

理科

物理・化学・生物・地学の各分野から基本的な内容を中心に均等に出题しています。環境問題、近年話題になった新発見、身の回りに起こる自然現象などについての簡単な問題も

出題されます。こうした出題形式は 2012 年度も変更なく、難易度も例年どおりです。具体的な出題形式は、小問 20 問（四者択一問題）に加え、中問題 2 題（小問各 5 問ずつ）となります。また、中問題には記述式の解答を求めるものもあります。小問は独立した問題です。わかりやすい、解きやすい問題が多く含まれます。中問題についても、その中の小問は直接関連していないものもあります。文章もあまり長くありません。正答率からもわかりますが、中問題より小問題の中に非常に正答率の低いものがあります。中問題はゆっくり考えると、文章の長さほどには難しくありません。小問についても、多くが基本的な内容についての出題ですが、なかには毎日の生活のなかでよく見られる現象について問うものもあります。ふだんあまり気に留めない、日常の生活で当たり前と思われる現象や、身の回りにある変化を注意して観察してください。よく考えると非常に不思議なこと、驚くことが数多くあると思います。小さなことに疑問を持って、機会あるごとにそれを図書館や博物館に行って調べてみましょう。

社会

例年、地理・歴史・公民の 3 分野から 10 問ずつ出題しています。時事問題を除けば、内容は基本的な事項を問う設問となっています。地理では地形図の読み取りなどを通して、その土地の成り立ちや特徴を答える設問が主流となっています。地名などを単に覚えるのではなく、その地域の自然と人間の生活との関係についてしっかりと把握しておく必要があります。歴史では、設問のうち約 50%は四者択一による正誤判定問題となっています。範囲としては古代から現代まで、また政治史のみならず文化史や経済史までさまざまな分野にわたります。したがって、用語を単に覚えることより、きちんと歴史の流れなどを理解しているかどうか重要です。公民では、新聞記事などを読み、そこから憲法や日本の政治制度といったものについて答える設問が中心となっています。時事問題は学校での勉強よりも、きちんと新聞やテレビのニュースを目にしているかどうかを試されるので、正答率の低い場合もあります。こうした問題は、多くは 2011 年の出来事から出題しますので、日ごろからしっかりと世の中の動きに着目していきましょう。

東京農業大学第一高等学校中等部

算数

問題の形式は 2011 年と同様で、計算問題、一行程度の文章題、思考的（作業的）問題で構成されます。第 1 回、第 2 回は答えだけを記入する問題が中心で、第 3 回は考えた過程を記述する問題があります。計算技能の確かさ、定理・法則を活用できる力、数量や形をイメージする力、情報を整理整頓できる力、試行錯誤できる能力などを求めます。

国語

過去と同様の形式で、難易度はほぼ 2011 年並みです。第 1 回は語句の問題、漢字の問題、文章題（説明文 1 題）の構成で、第 3 回は文章題 2 題（物語文、説明文）で構成されます。漢字は「とめ・はね」を見ます。

理科

理科を学ぼうえで見本となる内容や、身の回りの現象などを素材とする内容の試験で、4 分野のバランスを考えて出題します。「知識や原理・法則の定着・活用」「情報の読み取り」「グラフ・表の内容把握」「考察や原因の究明」「自分の考えた道筋を表現する記述問題」などから構成されます。

社会

地理・歴史・公民の 3 分野から出題します。全般的には人名・地名・事件名など社会科としての基礎・基本を確認し、地理分野では雨温図・地形図・統計グラフなどを正確に読み取ることができるか、歴史分野では時代ごとの政治・経済・文化の違いを理解しているか、公民分野では環境問題や国際関係、時事問題を含めて興味・関心があるかどうかを見ます。人名・地名・事件名などについては、漢字指定の場合があります。

日本大学第二中学校

算数

基本的な計算力（ミスを減らし、計算するスピードをつける）と、問題文をよく読み、何を求めているのかを明確に判断する力を身につけましょう。応用問題はできるものから確実に。

国語

例年、長文の問題を出題しています。文章をしっかり読み、内容をつかむこと。ほかに、漢字の読み書き、ことわざなどが出題されたこともあります。文章に慣れる訓練をしておきましょう。

理科

4 分野から満遍なく、教科書の内容を中心に出题します。問題集や参考書で難問・奇問を練習するよりは、日ごろから教科書の基本事項をまとめ、確認しておきましょう。グラフの問題も解けるようにしておきましょう。

社会

3 分野から満遍なく、教科書の内容を中心に出题します。教科書をしっかり学習し、語句だけでなく内容も理解すること。時事問題も出題するので、最近の社会の出来事に注目してください。

広尾学園中学校

算数

まず、正確ですばやい計算力を毎日の計算練習でものにしましょう。無理なくこなせる問題量を決めて、こつこつと続けることが大切です。一日 15 分程度で十分です。一度に 3 時間やるより、一日 15 分の計算練習を 2 週間続けるほうが力がつきます。その際、計算の過程をきちんとノートに書き、答え合わせのときにどこを間違えたのか、どんなところでミスしやすいかを発見するように努めること。

国語

本校の国語では、漢字や語句の知識、内容を的確に読み取る読解力、内容や考えをまとめてことばにする表現力の三つについて、いずれも相応の実力が求められているといえます。問題数も多いので、時間切れに注意して、ペース配分を考えながら解くことが重要です。ただ、難問・奇問の類いはほとんどなく、国語の基本的な力を身につけていれば十分に対応できるはずです。

理科

本校の理科では、各分野から満遍なく出題されており、その内容は基礎的なものが中心ですが、やや高度なものも含まれています。したがって、まず基礎的な知識を早いうちに身につけ、そのうえで問題集の演習を繰り返しながら思考力アップをめざしましょう。

社会

まず、基礎を固めることを心がけてください。教科書のほか、説明が易しくていねいで標準的な参考書を選び、基本事項をしっかりと身につけましょう。また、設問事項が広範囲にわたっているので、不得意分野をつくらないことも大切です。問題集を解いていて自分の弱い分野が見つかったら、すぐに教科書や参考書に立ち返り、理解できるまで復習することです。

文教大学附属中学校

算数

全範囲から満遍なく出題します。1問5～6点で、部分点を与える問題もあります。毎年、最初の大問は計算問題です。簡単な計算問題で間違えないことが合否の分かれ目です。確実な計算力を身につけましょう。

国語

文学的文章と説明的文章の長文2題を出題します。ほかに、知識問題が独立題として20点分出ます。韻文はありません。記号問題が多く出ますが、記述問題や漢字の読み書きも出題します。

理科

4分野のうち、物理分野と生物分野の配点がやや高めです。身の回りの理科的な出来事や、実験の問題も出題します。2012年度入試から試験問題が短くなった分、難易度の高い問題が少なくなります。

社会

地理は都道府県名に関する出題が毎年あります。歴史は必要な基礎知識を完全にマスターし、時代名とその時代の大きな特色を押さえておきましょう。公民は日本国憲法の三大原則（基本的人権の尊重・国民主権・平和主義）にかかわる内容を毎年出題しています。時事問題も毎年出題しているので、内外の重大な出来事について調べておくとよいでしょう。

法政大学中学校

算数

中学校に入ってから必要とされる基礎的な学力を見るために、基本問題を中心に出題します。計算力はもちろんのこと、特殊算・速さ・割合・場合の数・図形問題などあらゆる分野において、基本から標準レベルまでの問題を数多くこなしておいてください。なお、解答の形式は答えのみとします。

国語

物語的文章、説明的文章の読解問題を、大問として2題出題します。選択肢問題が主流となりますが、抜き出し問題、記述問題も出題します。また、漢字の読み書きや慣用表現、接続詞、品詞の識別も出題します。書かれている内容を正確に読み取り、論理展開を押さえる演習をしておいてください。

理科

物理・化学・生物・地学のどの分野からも、基本的な問題を中心にバランス良く出題します。基礎的な知識とともに、実験や観察の結果を確実に読み取り、考察できる力をつけるようにしてください。また、自然や科学に関するいろいろな話題について、ふだんから関心を持つようにしてください。

社会

地理・歴史・公民の各分野から出題しますが、分野ごとの割合は必ずしも均一というわけではありません。特に、基礎的な学力を見ることを重視します。問題文や資料を確実に読み取って、自分の知識と結び付ける力が必要です。また、資料や図表などから、わかったことを記述する力も必要です。日ごろからニュースなどに関心を持って学習に取り組むようにしてください。

宝仙学園共学部理数インター

算数

2012年度の入試は、計算問題・一行問題・文章題・図形・算数オリンピック問題という出題です。基本的な学習をしっかりとっておくことが大切です。算数オリンピックの問題は、楽しみながら取り組んでください。

国語

長文読解 2 題（説明的文章・物語的文章）、漢字の読み、漢字の書き、ことばの知識がそれぞれ出題されます。文章の長さも設問数も標準程度なので、試験時間の 50 分のなかで十分に解くことが可能です。しかし、論述解答が求められることもあるので、日々のトレーニングが大切です。完全自由記述は出題しません。文章中の表現を利用して解答をまとめるコツを、トレーニングによって身につけてきてください。筆者が何を伝えたいのか、ポイントを押さえて読む練習をしていくことが大切です。

理科

大問 5 題構成であり、各大問に 5 問前後の小問が設けられています。物理・化学・生物・地学・総合の各分野から偏りなく出題されます。論述解答や図の完成などの出題もありますが、ほとんどの問題は標準的な内容なので、基礎的な知識を身につけ、問題集などで演習を繰り返して実力アップをめざすことが大切です。

社会

大問 4 問構成（地理・歴史・公民・総合）に変更はありませんが、40 分の試験時間内で十分に解けるように、記述問題を中心に小問の数を減らしました。記述問題であっても、提示されている文章や図表などの資料を上手に活用すれば解答可能ですので、あきらめずに挑戦してください。また、時事的な話題に関する出題がありますので、日ごろから新聞を読むなど、ニュースに関心を持つことが重要です。

明治学院中学校

算数

小数・分数を含む四則演算、整数の性質・速さ・割合・関数・場合の数・規則性・図形の計量など、計算や文章題を含め、なるべく全範囲から出題するように心がけていますが、過去の入試問題を参考にさせていただければ、おおよその出題傾向がわかるかと思えます。総合問題や混合問題なども出題しますが、基本的な事項をきちんと理解し、その意図を読み解けば、比較的容易に解けるものと考えています。苦手な範囲を克服し、全範囲で漏れないような基礎学力をつけておいてください。問題は記述式の解答法ではなく、解答用紙に答えのみの記入です。一つの設問で複数解答の場合は、完答での正解であることも含め、試験では、確かめの時間を残すようにして、ケアレスミスには十分に注意してください。特に、大問では一つ目の設問の解答の値をそれ以降の設問で使用する問題が多いので、1 問目は確実に解きましょう。合否の差は 1 点ということもよくあります。試験では最後の 1 秒まであきらめることなく、全力で取り組んでください。

- その他**
- ①問題数は 20 問から 25 問を基準としており、原則的には配点は同じです。
 - ②単位がある問題には解答欄に単位をつけてありますので、単位記入は不要です。
 - ③解答の四捨五入に関しては、問題の注意書きにて指示します。
 - ④円周率は、問題の注意書きにて指示しておきますが、「3.14」として計算することになります。
 - ⑤定規・分度器・コンパスを使用する問題を出題します。試験当日に持ってきてください。
- ※定規：1mm 単位で測れるもので、最低 10cm の長さが測れるもの。直定規でも三角定規でも構いません。
- ※分度器：角度が測れるものであればどんなものでも構いません。
- ※コンパス：半径 5cm 程度の円が描けるものであれば大丈夫です。

国語

毎年、まず長文の読解問題があり、その後にさまざまな小問が続き、最後に 8～10 問の漢字の問題を出題するのがおおよそのパターンとなっていますので、まずは過去問で傾向をつかんでおいてください。読解問題については、ふだんからの読書が大切なのはいうまでもありませんが、問題集などで少しでも多くの演習に取り組んでおいてください。その他、文法、漢字など、全体に小学校で学ぶ基本的な力を問う出題ばかりですので、問題文で何が問われているのかを的確にとらえ、それに対する解答を解答欄に大きくていねいな字で書けるようにしてください。特に漢字は「とめ・はね・はらい」に気をつけて書くようにしてください。

理科

問題形式は、小問 15 問、大問 2 題の構成です。選択解答の問題が中心ですが、一部に説明や用語を問う問題があります。用語を問う問題では、漢字の間違ひは不正解となります。小問は、物理・化学・生物・地学の全範囲から出題します。最近の社会で起こったことを

もとに出題される場合があるので、新聞に目を通してください。大問は応用問題です。データや表から考えて解答を導き出す問題が出題されることもあります。また、大問では見たこともないような形式の問題もありますが、問題文をよく読んで解答してください。小学校の教科書に書いてある実験には興味を持ち、その実験の目的や方法などについて理解しておいてください。

社会

教科書を基本としつつ、教科書では扱っていない事柄や時事問題も出題の対象とします。最近話題になった出来事などにも関心を持って学習してください。例年、地図やグラフなどを使った問題を出題しています。また、記述問題もありますので、正しい漢字を用い、正確な記述ができるよう、表現力をつけるようにしてください。

明治大学付属明治中学校

算数

[1]は解答のみで構いませんが、[2]以降の問題は、すべて式や考え方が必要です。表や図、ことばや方程式でも結構です。なお、[2]以降は解答のみでは点が与えられません。逆に、解答が間違っているにもかかわらず、式が合っていれば部分点が与えられることも多くあります。

国語

通常は長文（説明文）1～2題。漢字の書き取りや日本語に関する知識問題（文法・慣用句・ことわざなど）も出題します。読解問題は記述式が多くなっています。

理科

物理・化学・生物・地学の4分野から満遍なく出題します。いずれも実験や観察、身近な事象からの出題が多くなっています。物理や化学では計算問題、生物では記述式問題もよく出題します。

社会

地理・歴史・公民の各分野に加え、時事問題もよく出題します。記述・論述形式での出題もあります。地名・人名・用語は原則として漢字で書かれていないと不正解とします。

目白研心中学校

算数

計算問題や一行程度の文章題のほか、応用問題を数問出題しています。出題範囲はやや広めですが、計算力と代表的な問題の解法を問う出題がほとんどです。

国語

物語や説明文などの長文読解問題と漢字の読み書き、日常の慣用句やことばの意味を問う問題などを出題しています。ふだんから本を読み、読解力をつけるようにしてください。

理科

「生物と環境」「物質と変化」「運動とエネルギー」「地球と宇宙」の各分野から満遍なく出題しています。ふだんから問題演習や実験の確認などを行ってください。

社会

地理的分野からは日本と関係の深い国々や地域について、歴史的分野からは日本の歴史を中心に、公民的分野からは政治、日本国憲法、国際理解について出題します。解答を漢字で正しく書けるようにしてください。